

# 中央家畜衛生広報

福島県中央家畜保健衛生所

〒963-6311 石川郡玉川村大字岩法寺字新屋敷114-12

TEL 0247-57-6131 FAX 0247-57-6144

死亡牛搬入専用TEL：090-5844-5300

E-mail kaho.lhs08@pref.fukushima.lg.jp



令和5年11月号

## 鳥インフルエンザに警戒を！

### 国内の野鳥でウイルス検出

北海道で10月4日にハシブトガラスから、10月18日にノスリから高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）ウイルスが検出されました。渡り鳥ではなく、カラスや猛禽類から検出されたことから、環境中に広くウイルスが存在していると推察されます。

令和4年度シーズンの高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）が発生した農場では、周辺又は敷地内において発見された死亡カラスからHPAIウイルスが検出された事例もあり、野鳥対策が重要になります。鶏舎のほか、飼料保管庫、堆肥舎、死体保管場所にも防鳥ネットを設置し、野鳥の侵入を防止しましょう。

### いま一度防疫対策の徹底を！

#### 入出時対策

消毒・更衣前後における交差のない動線、明確な境界線の確保。

作業従事者のほか、外部事業者も対策を徹底



#### 野生動物対策

農場内の整理・整頓、堆肥舎や鶏糞搬出口への覆いの設置。

一見隙間のなさそうな家きん舎でも入念に侵入口を点検



#### 入気口対策

粉じん、羽毛等の取込み対策に野鳥避けの設置。フィルター設置も検討。

普段は目が届きにくい場所の対策も重要

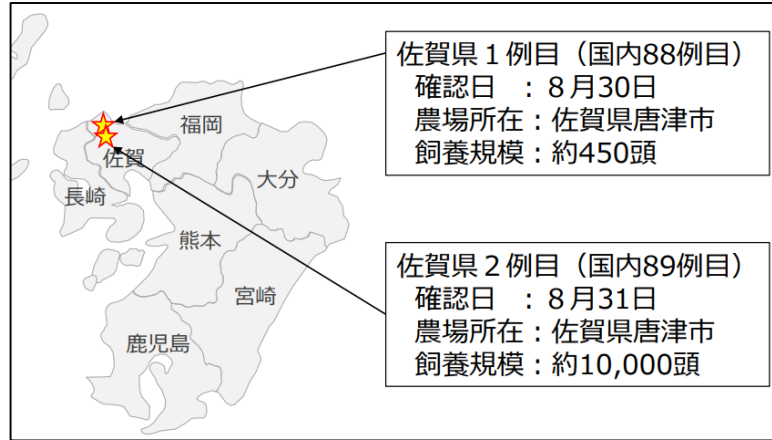


従業員、いつもの事業者のほか、工事などでたまに来る事業者も対策を！

鶏舎の隅々まで点検、修繕を！

# 佐賀県で豚熱が発生

令和5年8月30日、31日に佐賀県の2農場で飼養される豚において、国内88、89例目となる豚熱が発生しました。遺伝子検査の結果、中国地方西部の野生イノシシ由来のウイルスと最も近縁であり、88例



目は89例目由来と考えられました。また、89例目のウイルスには多くの変異があったことから、農場内にウイルスが侵入してから時間が経過していたことが推察されました。

また、両農場の半径10km以内の野生イノシシ90頭を検査したところ、豚熱感染は認められませんでした。

これらのことから、中国地方西部から人為的な伝播により89例目の農場にウイルスが侵入・感染拡大したのち、野生イノシシ以外の何らかの要因を介して88例目の農場に侵入したと考えられます。いずれも侵入経路については明らかになりませんでした。

疫学調査結果から、豚熱発生・まん延防止のため、以下のポイントが示されました。

## 1 衛生管理区域及び豚舎への出入り時の対策

- 野生動物や周辺環境を介した農場間の伝播の可能性もあることから、衛生管理区域に入る場合だけでなく出る場合にも人・物・車両の消毒等の衛生対策をすること
- 豚舎出入口で手指消毒又は専用手袋の着用をすること
- 豚舎出入口で専用の作業着・長靴に更衣すること
- 豚舎内と豚舎外で使用する作業着や長靴が交差しないこと
- 豚の移動に使用する車両やケージ、屋内の通路は使用前にも洗浄と消毒をすること

## 2 飼養管理者・獣医師の連携による健康観察と早期通報

- 死亡頭数の増加等の豚熱を疑う症状（特定症状）を確認してから家保への通報が遅れた事例あり
- 飼養者等の判断による豚熱の否定、他の疾病を念頭にした検査・治療が通報の遅れにつながる
- 他農場への拡大防止のため、特定症状が認められたらすぐ通報すること
- ワクチンは完全に感染を防ぐものではないと認識すること

## 3 農場・豚舎内への野生動物の侵入防止対策

- 豚舎や堆肥舎、飼料保管庫等への野生動物の侵入を防止
- 出入り口や隙間にネット設置
- 壁や天井の破損部位などの侵入経路となり得る箇所の有無を点検
- 破損があればすぐに修繕すること
- 衛生管理区域内の整理整頓
- 防護柵周囲や衛生管理区域を定期的に除草すること

## 4 衛生管理区域の設定及び管理

- 農場周辺から豚舎への病原体侵入リスクを低減するための緩衝地帯として衛生管理区域を設定すること
- 衛生管理区域に農場内の必要な敷地・施設を網羅すること
- 衛生管理区域の境界を明確に示すこと
- 出入口を最小限にすること
- 全ての出入口で同様に衛生対策をすること

**発熱、食欲不振、元気消失等、うずくまり、便秘に続く下痢、呼吸障害等  
異状を発見したら直ちに通報しましょう!**



写真出典：岐阜県

家畜保健衛生所は、土日祝日・夜間等も電話がつながります。

# 11月は薬剤耐性対策推進月間です

## 薬剤耐性菌って？

薬剤耐性菌とは、「抗菌剤が効かない細菌」です。薬剤耐性菌は、抗菌剤の使いすぎなどにより増加し、人や動物の治療が困難になります。



## 薬剤耐性問題と畜産との関わりは？

抗菌剤は、畜産分野でも、動物用医薬品や飼料添加物として使用されています。

家畜への抗菌剤の使用により増加した薬剤耐性菌が、家畜の治療を困難にするだけでなく、畜産物等を介して、人の感染症の治療を困難にすることが懸念されます。

## 薬剤耐性対策ってどうすればいいの？

→次の4つのポイントに取り組んで、  
抗菌剤の“慎重使用”を徹底することが重要です。

### 感染症を予防する

施設内の洗浄・消毒の徹底、十分な飼養スペースの確保、適切な栄養管理等により、感染症を予防しましょう。



### 家畜の状態を的確に把握する



家畜の異変に素早く気付けるように、毎日、飼育する家畜の健康観察を行い、家畜の状態を的確に把握しましょう。

### 獣医師に伝える

獣医師が状況を把握し、診断できるよう経過、措置の状況、過去の感染症の発生等の情報を獣医師に伝えましょう。



### 抗菌剤を正しく使用する

抗菌剤は獣医師からの指示に基づき、用法・用量、使用禁止期間等を守って正しく使用しましょう。



詳細は、農林水産省HPに掲載しています。

農林水産省 抗菌性物質

検索